

1 自己評価

I 評価結果

高質な学力を身につける【B】

A: 当初の見込みを超える取組を行うことができ、目標を上回る達成状況である。B: 当初の見込みどおりの取組を行うことができ、ほぼ目標どおりの達成状況である。

II 分析・改善方策

高質な学力を身につける

(1) 学びを深める授業づくり

- ・学校自己評価アンケートの「倉敷青陵高校で学ぶことによる充実感、満足感を持っている」の項目で肯定的な回答が93%まで上昇した。100%を目指すべき項目であると考えるので授業改善をさらに進めたい。
- ・5教科による公開授業研究会も実施することができ、よい研修の機会となった。学校自己評価アンケートでも「授業の指導内容や方法等について、教員相互の研修を積極的に行っている」の項目の数値が今年度も上昇しており、とくに「よくあてはまる」と回答した割合が50%を超えた。指導力向上委員会の取組や研修の効果が表れていると思われる。
- ・ICT機器を効果的に利用することで、学び合いや発表の機会が増え、能動的学習につながっている。学校自己評価アンケートでも「授業の中で、必要に応じてICT機器を活用している」の項目の数値が97%まで上昇しており、今後もさらなる活用を進めていきたい。

(2) PBLの充実

- ・教員同士の打ち合わせを適宜行い、探究プログラムを更新し、学年団全体で指導にあたることができた。
- ・岡山大学DS部を含む外部講師の活用が大変効果的であった。
- ・外部発表会への参加グループ数が前年度の2倍にも増加した。

(3) 立志につながるキャリア支援

- ・今年度も東京大学訪問を実施し、参加者からは意欲が高まった等の感想をもらうことができた。
- ・難関大志望者について、進路指導課から直接生徒へ意義等を伝えていったが、東京大学志望者がなかなか増えず十分な成果とはならなかった。
- ・自殺予防週間に合わせて人権だよりを発行したり、命の大切さへの理解を深めるための講演会（保護者も参加可能）を実施したりすることができた。規範意識の向上にも繋がったと思われる。
- ・学校自己評価アンケートでも「人権意識を高めたり、人権問題について正しく学ぶ機会がある」の項目において90%以上の生徒があてはまると回答した。

(4) グローバル人材の育成

- ・異文化交流体験プログラムとして12名の生徒がニュージーランドでの体験を行った。また、ニュージーランドのカイアポイハイスクールとの姉妹校締結も完了し、相互間での交流の機会が約束されることとなった。ただ、次世代リーダー養成プログラムとしてシンガポールでの海外研修や海外修学旅行との棲み分けも今後の課題といえる。
- ・海外からの学生2名の受け入れを行った。内1名は1学期間の受け入れとなり、海外に行く機会の少ない生徒に対しても交流機会を設定することができた。

(5) 生徒が主体となって企画・運営する行事・活動の充実

- ・青陵祭において特に体育の部を体育館開催とした。生徒主体で内容を検討し無事にやりきることができた。次年度、さらなる発展のために課題を検討していきたい。
- ・今年度も倉敷市内生徒会交流会を本校がホスト校となり開催することができた。リーダー育成に大いに期待できるものとなった。
- ・部活動や委員会が中心となって小学校との交流会等も行うことができた。

2 学校関係者評価委員名

森川政典（大原芸術財団業務執行理事財団本部事務局長） 宮本浩治（岡山大学教育学部教授）
松本一郎（岡山理科大学非常勤講師） 徳田政太郎（同窓会副会長） 小川 灯（PTA会長）

3 学校関係者評価

- ・単元計画を立てて評価していくなど指導と評価の一体化に向けての取組が見られて素晴らしい。ただ、単元に基づいて評価したものをどのように活用していくのかを課題としてもらいたい。
- ・探究活動が充実していることが分かる。コンテストへの参加も増えている。ただ、図書館利用数が増えていない。ネットの活用が増えたことも影響していると思われるが、正しい情報を収集できているのか、やはり文献から得られるものは大きいと考える。
- ・探究活動において、本を読んだりネット検索したりだけでなく、もっと深く知りたいと考え、専門家に直接話を聞きに行くような生徒を育ててもらいたい。
- ・成績上位の生徒だけでなく、下位層の生徒に対しても手厚い指導を行っていることも発信していく必要がある。
- ・姉妹校締結により、国際交流活動のさらなる活性化に期待する。
- ・あいさつを積極的に生徒からしている感覚は無い。また、交通事故の増加も気になる。あいさつやヘルメット着用の啓発を生徒会や委員会を活用するなどして生徒主体で考えさせるとよいのではないかと。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

○学びを深める授業づくり ○DXハイスクールの取組推進 ○PBLの充実 ○立志に繋がるキャリア支援
○グローバル人材の育成 ○生徒主体の行事・活動の充実およびその成果の効果的な発信